

逗子の景観まちづくり

瓦版 第四十五号

平成二十七年九月十五日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に

関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「マイナーな道」

先日、自然の回廊プロジェクトメンバーと名越緑地を歩いた折に、「名越尾根道」の道標が目にとまり皆で山道を歩いた。途中、「東名越」の道標があり、久木ハイランドに通じる道だった。初めての道だったので楽しいのだ



「逗子海岸から山間に昇る日の出を見る」

絵 熊谷 由美

が、すっかり放置された道のように雑草が生い茂り、前進するのに苦戦した。

池子の地の人なら知っている逗子高裏手から神武寺に上る旧道がある。ここは磨り減った石畳の道で、傾斜が緩やかだから歩きやすく楽しい。私の好きな山道だ。しかし、今は学校の許可が必要なため、残念だがほぼ廃道になっている。

制約があるが驚きの風景といえば、新宿七曲りの道を披露山へ少し上り樹木越しに見下ろす逗子海岸の夜景だ。陽が落ち暗くなった海に沿うように、帰路につく車のライトが弓なりに流れ繋がっていく。まちの明かりも点在し、コンパクトだが静と動、明暗コントラストの美しさは、函館山や神戸六甲山に遜色はない。素晴らしい夜景が楽しめた。

これらのルートポイントは近くにあるように遠く、今は誰でも行ける場所ではなくなりつつある。生活のための道もそのニーズがうす



「桜山中央公園のドライブロード」

絵 熊谷 由美

れ、今は消えていくのだろう。壊されなければ将来に向けて道の潜在力は残ってくれるのだろうか。

竹編みのコシゴ（腰籠）を腰に付け、ジジと松茸取りに山に入った私の里山はノスタルジアの中にあるようだ。

文 松岡 安宗

逗子の景観を考える vol.14



自転車をこぎながら見る景観、車が走らない景観をかんがえてみる

「ツール・ド・逗子」というイベントをお聞きになったことがある方もいらっしゃると思います。「ツール・ド」と銘打っていますが、これは自転車や徒歩で地域をめぐるスタンプラリーイベントです。「歩行者と自転車のまちを考える会」は、このイベントの開催を通じ、地域の魅力を再発見していただくこと、自転車や歩くことの魅力を再認識していただくことで過度に自動車に依存しないまちづくりを進めることを目的としています。

もう一つこれまで取り組んできているイベントが「カーフリーデー」。こちらは、毎年9月に世界中の都市が街中を歩行者天国などにして「自動車を使わない日」を実現するイベント。すでに世界では道路は、クルマのものから人中心へとシフト。あのニューヨークでも、交通対策は渋滞解消ではなく、歩行者の安全確保が主命題になっています。振り返って小さな逗子。歩行者が安心してゆっくりとくらすまちの風景を目指してみませんか。

記 「歩行者と自転車の会」会長 三浦清洋



道中のヤマユリがキレイ。逗子には里山もあるんだ。



私の逗子の走り方
～自転車だから見える景色～

ツール・ド・逗子に参加した高校生が道中の景色を写真でご紹介！たくさん走ってたくさんの景色を撮ってきてくれました。



ルールの説明を受けて、
亀岡八幡宮を出発！



自転車だから気付く、道沿いの心とむお花。お手入れの様子を垣間見れました。

小坪漁港に到着。丘陵に並ぶ家並みと漁港の風景はここならでは。



披露山公園の眺望。
景色が一気に開ける！



瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課

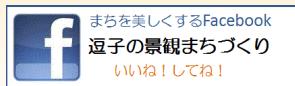
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：machi@city.zushi.kanagawa.jp

逗子の景観まちづくり

検索

クリック！



瓦版に掲載する
逗子の景観コラム、
イラスト募集中！！



☆瓦版のバックナンバーは逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。逗子市HP、逗子の景観まちづくりフェイスブックにもアップしていますのでご覧ください。